

経済レポート

グラフで見る東海経済(2016年5月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は、横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。生産は2月に自動車工場の生産停止の影響で大幅に減少した後、3月に増加したが、均してみると弱含んでいる。輸出は、3月の実質輸出が2ヶ月ぶりに増加し、均してみると横ばい圏で推移している。雇用は、失業率、就業者数、求人倍率など、総じて横ばい圏で推移している。賃金は横ばい圏で推移している。個人消費は、物価の落ち着きによる下支え効果もあって横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。設備投資は、製造業、非製造業ともに増加している。住宅着工は横ばい圏で推移し、公共投資は下げ止まりの動きがみられる。先行きについては、生産は、主力の自動車が爆発事故や熊本地震等による工場操業停止の影響で振幅するものの、均してみると横ばい圏からやや弱含みでの推移が見込まれる。輸出は、新興国経済減速の影響もあって横ばい圏での推移が見込まれる。消費は、所得環境が変わらない中、横ばい圏での推移が見込まれる。公共投資は目先は横ばい圏で推移し、設備投資は増加が続くと見込まれる。東海経済は、横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↘		↗
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		↘	生産	↘		→
設備投資	↗		↗	雇用	→		→
公共投資	↗		↘	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国はじめ新興国経済の減速懸念、米国の利上げペースと新興国通貨安
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産動向、原油安と為替変動の影響
- ・政策～消費増税先延ばしの判断、マイナス金利導入の影響、伊勢志摩サミット開催の影響
- ・家計～賃金の改善状況と消費行動への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	4月のコメント	5月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	4~5
2. 生産	自動車の減産により大幅減少	弱含んでいる	6~8
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	9~10
4. 賃金	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	12~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14~15
7. 設備投資	増加している	増加している	15~17
8. 公共投資	下げ止まりの動き	下げ止まりの動き	17~18
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい	19~20
10. 物価	横ばい圏で推移している	緩やかに低下	20
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	21
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加	21

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

2. 生産

東海3県の鉱工業生産指数(速報)は、3月は主力の輸送機械が持ち直し、前月比+8.3%と2ヶ月ぶりに増加したが、均してみると弱含んでいる。

10. 物価

3月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比-0.4%となり、5ヶ月ぶりに低下した。

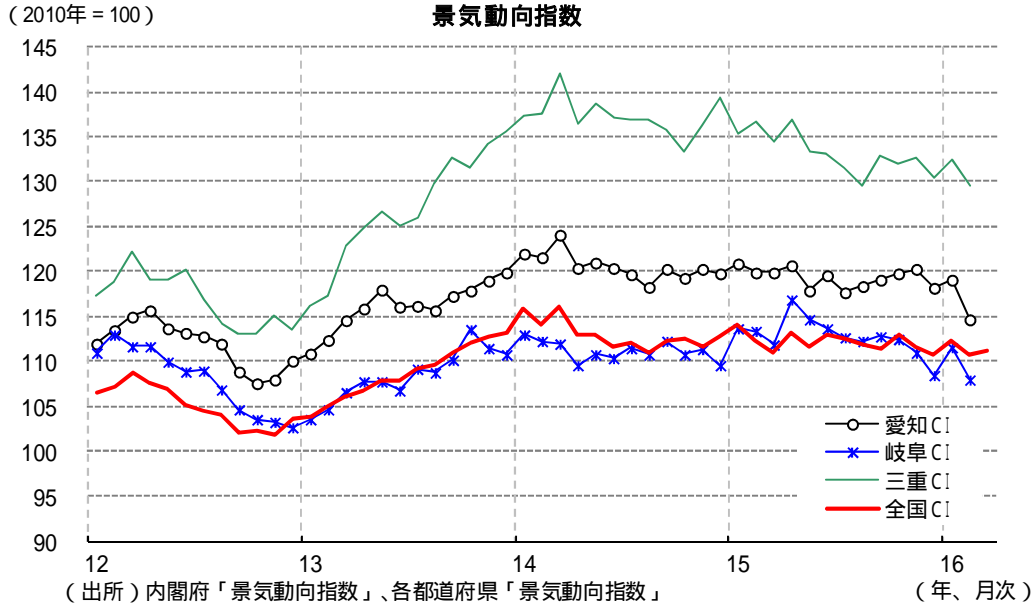
【主要経済指標の推移】

経済指標		15 1-3	15 4-6	15 7-9	15 10-12	16 1-3	15 11	15 12	16 1	16 2	16 3	16 4
景気全般	景気動向指数 愛知 (C I、一致指数)	120.2	119.4	118.4	119.4		120.3	118.2	119.1	114.7		
	岐阜 (C I、一致指数)	113.0	115.1	112.6	110.7		111.0	108.5	111.6	108.0		
	三重 (C I、一致指数)	135.5	134.4	131.3	131.7		132.7	130.4	132.4	129.5		
	景気ウォッチャー調査 (現状判断DI)	49.8	52.0	48.9	48.5	46.8	47.7	49.5	47.6	45.6	47.1	44.7
	(先行判断DI)	51.2	53.9	49.2	49.6	48.4	49.2	47.7	50.4	48.6	46.3	44.8
	短観業況判断DI (大企業製造業)	18	13	8	9	1	1	<6月予想>				
(中小企業製造業)	4	3	4	0	-3	-8	<6月予想>					
(非製造業)	10	9	13	16	11	4	<6月予想>					
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.6	1.1	1.0	1.0								
非製造業(兆円)	0.2	0.5	0.4	0.3								
生産	鉱工業生産 (季節調整済、前期比・前月比)	-0.7	-1.2	-0.6	3.2	-4.7	-1.4	-1.7	3.9	-13.9	8.7	
	鉱工業出荷 (季節調整済、前期比・前月比)	-0.2	-0.8	-0.9	3.3	-4.5	-1.1	-1.7	3.2	-10.9	4.3	
	鉱工業在庫 (季節調整済、前期比・前月比)	1.9	-1.1	0.5	-1.3	-0.9	-1.4	-1.5	0.3	0.4	0.0	
	鉱工業生産 輸送機械 (")	-2.2	-1.7	0.6	4.5	-4.5	-0.2	0.9	2.9	-18.4	16.9	
	はん用・生産用・業務用機械 (")	7.1	-2.4	-2.9	1.2	-5.4	-2.4	-4.7	1.9	-5.3	0.6	
	電子部品・デバイス工業 (")	-3.9	-4.8	-3.7	11.0	-7.1	-1.2	-3.7	15.9	-28.8	7.3	
	プラスチック製品工業 (")	-2.8	0.5	-0.2	6.8	-7.4	4.7	-1.9	-4.0	-8.0	5.3	
	化学 (")	1.8	-1.2	2.0	-6.8	-2.7	-7.6	-2.2	7.2	-6.8	-2.7	
	電気機械 (")	1.5	5.6	1.3	0.1	0.1	0.5	-1.2	3.6	-4.5	0.8	
	鉄 鋼 (")	-4.0	-2.3	-0.2	0.2	-6.4	0.6	-2.3	-2.7	-6.9	6.7	
	金属工作機械受注 総受注 (億円)	393.3	394.4	415.6	366.5	346.2	398.6	367.5	335.7	305.3	397.5	
国内受注 (億円)	136.7	155.1	173.5	128.7	116.4	134.6	122.5	107.1	99.6	142.6		
海外受注 (億円)	256.6	239.3	242.1	237.8	229.7	264.0	245.1	228.6	205.7	254.8		
大口販売電力量	-2.0	-0.5	0.0	-0.3	-0.4	1.5	-2.6	-1.8	1.0	-0.5		
雇用	完全失業率 (原数値、%)	2.4	2.8	2.7	2.6	2.8						
	就業者数 (原数値、万人)	776	775	776	770	784						
	常用雇用指数 愛知	100.5	101.7	102.0	101.7		101.7	101.7	101.0	100.7		
	岐阜	98.1	99.7	100.7	101.1		101.4	101.2	101.1	101.6		
	三重	97.1	98.5	98.9	98.6		98.4	98.7	98.0	98.1		
	有効求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)	1.5	1.5	1.6	1.6	1.6	1.57	1.59	1.63	1.59	1.60	
	岐阜 (季節調整値、倍)	1.4	1.5	1.6	1.6	1.7	1.61	1.64	1.70	1.66	1.68	
	三重 (季節調整値、倍)	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.35	1.35	1.33	1.35	1.35	
	新規求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)	2.3	2.3	2.3	2.4	2.5	2.41	2.41	2.63	2.38	2.45	
	岐阜 (季節調整値、倍)	2.1	2.1	2.2	2.3	2.4	2.24	2.28	2.53	2.22	2.44	
三重 (季節調整値、倍)	1.8	1.9	1.8	1.9	2.0	1.95	1.85	2.02	1.93	1.97		
賃金	現金給与総額	1.4	0.3	1.1	1.0		0.2	1.8	0.4	-0.8		
	所定内給与	0.8	0.6	-0.7	-0.6		-1.0	-0.2	-0.5	-0.9		
	所定外給与	5.5	3.3	4.1	4.5		5.7	4.4	-1.0	-1.1		
	勤労者世帯 (含む農家) の名目収入 勤め先収入	-0.1	7.3	7.2	-9.7	-10.6	-10.0	-11.8	-13.4	-10.5	-7.8	
定期収入	-0.1	7.3	7.2	-9.7	-10.6	-7.9	-10.4	-12.0	-10.6	-7.6		
個人消費	勤労者世帯 (含む農家) の名目消費支出	-6.8	2.2	-7.3	-6.5	-3.6	-8.6	-6.6	-3.4	2.6	-8.4	
	百貨店販売額 (名古屋市内)	-14.3	8.3	15.0	3.1	-2.0	-3.7	0.9	-1.8	-1.9	-2.2	-3.7
	百貨店+スーパー販売額	0.0	5.7	-3.7	-4.6	-2.4	-1.6	0.2	-0.2	1.6	-0.3	
	コンビニエンスストア販売額	4.7	6.9	5.2	4.6	4.5	3.7	4.4	3.9	6.9	2.8	
	新車登録台数 (含む軽)	-15.0	-5.4	-7.6	-8.6	-6.9	-8.3	-12.6	-3.6	-8.9	-7.5	
	家電大型専門店販売額	-26.3	1.8	4.3	-0.6	-0.6	-3.0	-2.1	6.8	1.4	-8.3	
	消費者態度指数 (一般世帯、原数値)	40.7	42.6	42.7	41.6	41.4	41.5	41.6	42.2	40.2	41.8	40.6
トヨタ国内生産台数 (季節調整済、万台)	25.8	25.6	26.8	28.0	25.3	27.7	29.3	26.2	21.0	28.6	28.6	
住宅投資	新設住宅着工戸数 (季節調整済年率換算、千戸)	101.1	106.4	107.0	98.5	107.1	101.1	97.7	98.1	110.6	112.5	
	(前年比、%)	-5.6	3.5	9.6	3.6	5.6	10.2	-0.6	-2.9	12.2	7.8	
設備投資	法人企業統計設備投資 (製造業)	19.1	2.3	13.9	8.9							
	(非製造業)	20.5	13.9	26.7	11.2							
企業立地件数	-	-	-	-	-	10						
公共投資	公共工事請負額	-13.9	-1.5	-6.3	0.7	7.3	6.3	-2.0	-12.2	11.5	15.9	-8.4
輸出入	実質輸出 (季節調整済、2010年=100)	115.0	107.6	109.0	115.3	112.0	118.9	112.9	116.3	109.2	110.5	
	通関輸出 (金額ベース、円建て)	7.1	4.5	2.2	-0.5	-6.9	2.6	-4.0	-9.2	-5.4	-6.3	
	実質輸入 (季節調整済、2010年=100)	119.7	117.2	119.3	118.4	116.7	115.9	113.1	118.5	115.6	116.0	
	通関輸入 (金額ベース、円建て)	-6.8	-5.6	-7.0	-11.8	-17.2	-9.6	-18.2	-17.9	-20.0	-13.5	
物価	消費者物価指数 (除く生鮮)	2.2	0.1	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.4	
	(食料及びIHPHを除く総合)	2.0	0.5	0.8	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	0.6	
金融	国内銀行預金残高	3.0	3.6	3.4	2.9	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	3.2	
	国内銀行貸出残高	2.3	2.5	2.0	2.1	1.6	1.6	2.7	2.5	1.3	1.1	
倒産	倒産件数	-23.8	-8.1	3.8	-21.8	-5.5	-15.9	-40.3	-8.2	-1.8	-6.4	-17.6

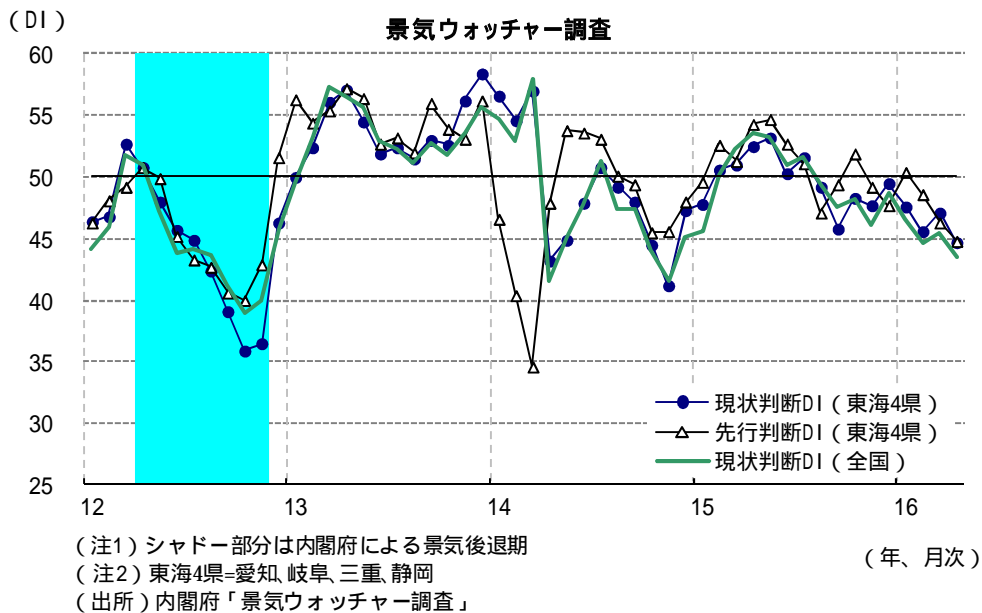
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

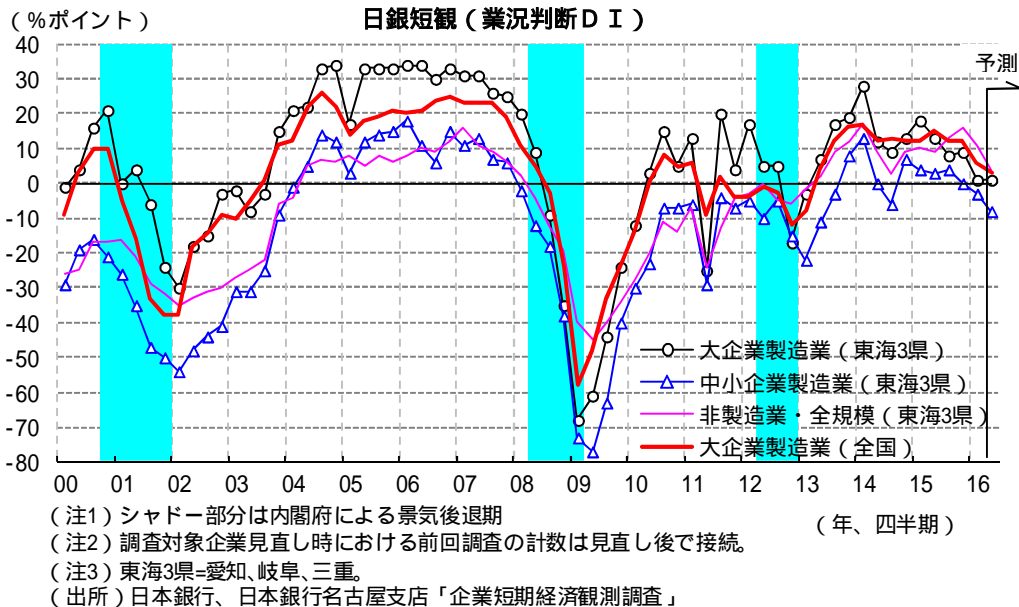
2月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち7系列がマイナス寄与となり前月差 - 4.4ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。また、三重県も同 - 2.9ポイント、岐阜県も同 - 3.6ポイントといずれも2ヶ月ぶりに低下した。先行指数は、愛知県、三重県、岐阜県のいずれも2ヶ月ぶりに低下となった。



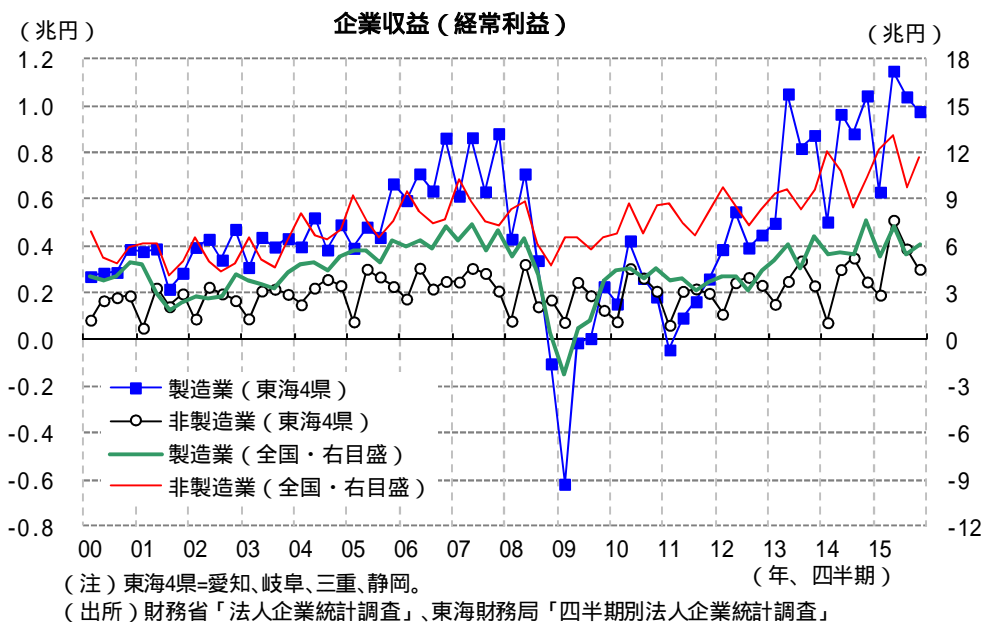
4月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが44.7と2ヶ月ぶりに低下（前月差 - 2.4）し、景気の横ばいを示す50を9ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断D Iも44.6と2ヶ月ぶりに低下（前月差 - 0.8）し、9ヶ月連続で50を下回った。先行き判断D Iは、同 - 1.5ポイントの44.8と3ヶ月連続で低下し、3ヶ月連続で 50を下回った。



日銀短観3月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+1と、前回12月調査から8ポイント低下、中小企業製造業は-3と3ポイント低下、非製造業[全規模]は、5ポイント低下の+11となった。業況判断D Iの6月予測は、大企業製造業は+1と横ばいが見込まれるが、中小企業製造業(-8)と非製造業[全規模](+4)はいずれも悪化が見込まれている。

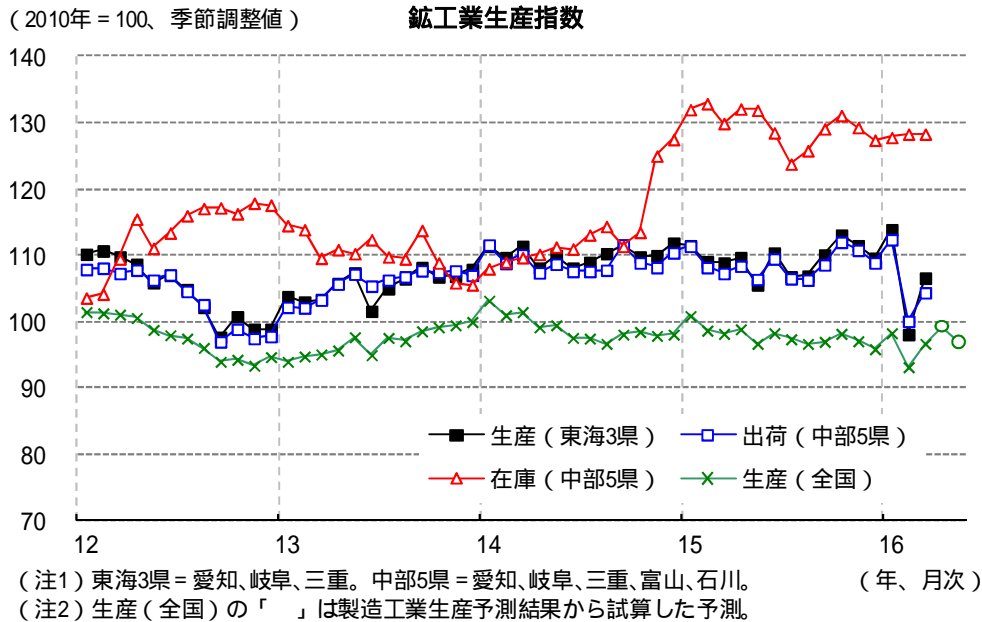


2015年10~12月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-1.0%と6四半期ぶりに減少した。非製造業は同+21.8%と7四半期連続で増加したが、製造業は同-6.4%と6四半期ぶりに減少した。日銀短観3月調査では、東海3県の15年度の経常利益(全産業)は同+11.1%と増益を見込むが、前回12月調査時を下回っている。16年度は全産業(同-0.9%)と製造業(同-1.2%)で減益、非製造業は前年同水準の見込みとなっている。

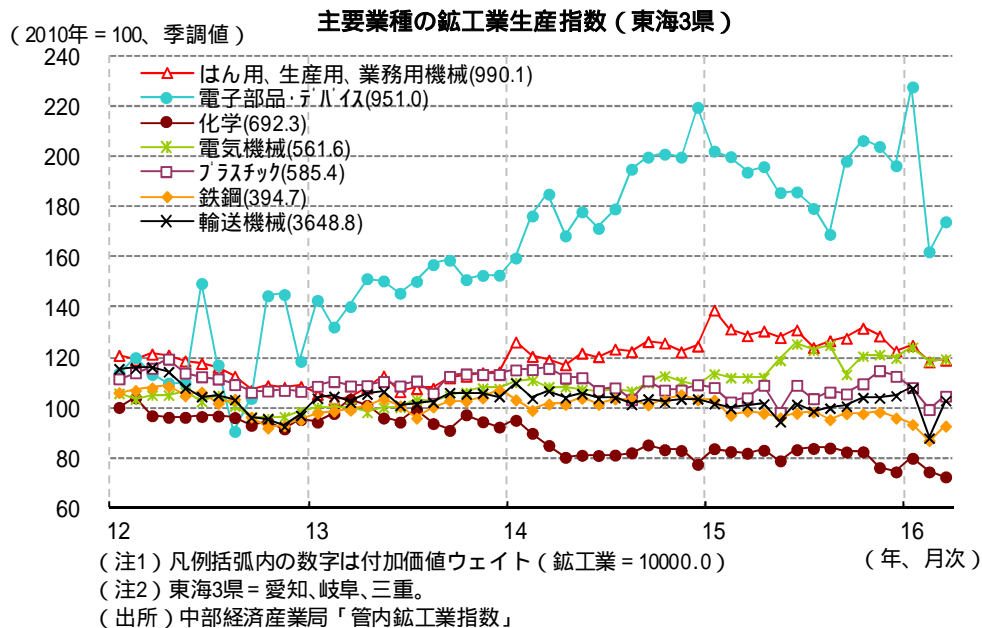


2. 生産 ~弱含んでいる

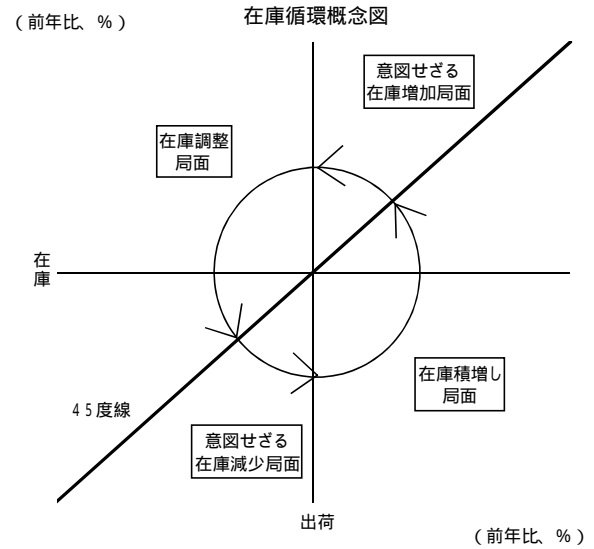
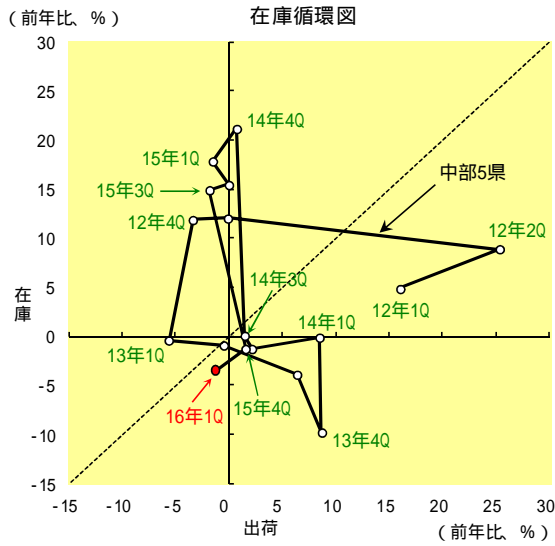
東海3県の鉱工業生産指数は、3月は主力の輸送機械が持ち直し、前月比+8.7%と2ヶ月ぶりに増加したが、均してみると弱含んでいる。今後については、4月から5月にかけては熊本地震の影響による減産が見込まれるが、6月以降は、2月の工場操業停止に伴う減産分も含めた挽回生産が見込まれる。東海3県の生産全体を均してみると、横ばい圏からやや弱含みの推移となろう。



業種別では、航空機体部品・同付属品 (前月比 - 28.6%) が3ヶ月ぶりに減少したが、乗用車 (同 + 26.0%)、輸送機械 (同 + 16.9%) は2ヶ月ぶりに増加した。また、電子部品・デバイス (同 + 7.3%)、はん用・生産用・業務用機械 (同 + 0.6%) は2ヶ月ぶりに増加し、鉄鋼業 (同 + 6.7%) は4ヶ月ぶりに増加した。



3月の中部5県の出荷は、前月比+4.3%と2ヶ月ぶりに増加した。電子部品・デバイス(同-10.1%)、はん用・生産用・業務用機械(同-4.4%)などは減少したが、輸送機械(同+14.2%)、プラスチック製品(同+5.9%)などが増加した。在庫は、前月と同水準となった。はん用・生産用・業務用機械(同+6.3%)、電子部品・デバイス(同+2.5%)などが増加したが、鉄鋼業(同-5.1%)などが減少した。



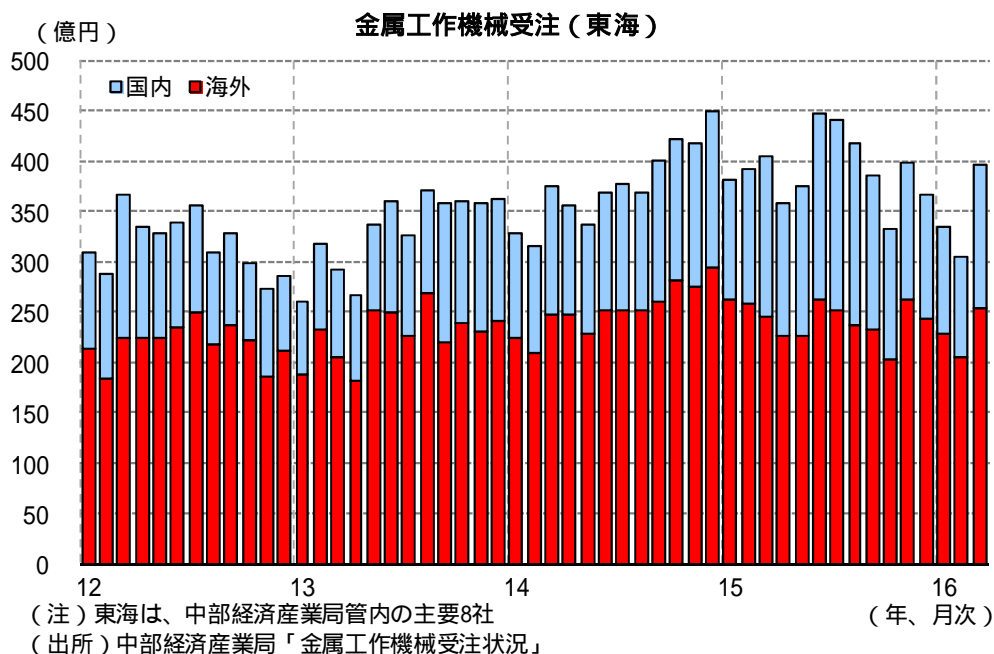
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

4月下旬にトヨタ自動車が主要取引先に参考値として提示した国内生産計画(中部経済新聞社報道)によると、向こう3ヶ月(16年5月~8月)の国内日当たり生産台数は1万3千台の水準で推移する見込みとなっている。もっとも、この計画は、熊本地震による減産の影響が織り込まれておらず、4、5月の実際の生産水準はこの数字を下回ることになる。

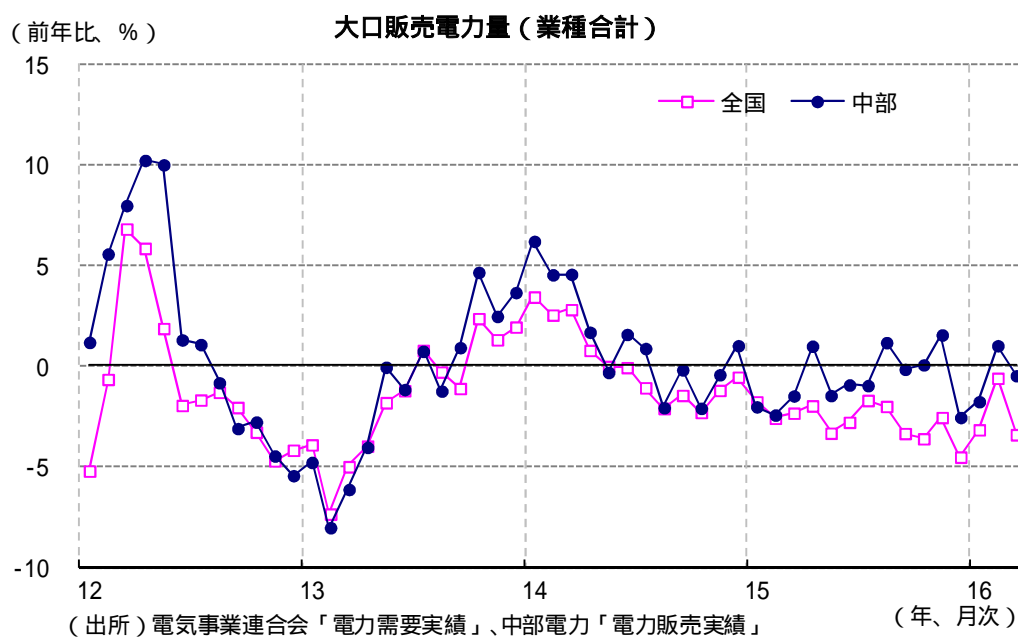


(注) トヨタ国内生産台数はMURCにて季節調整。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

3月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 1.8%と7ヶ月連続で減少した。海外受注(同 + 3.4%)は9ヶ月ぶりに増加したが、国内受注(同 - 9.8%)は6ヶ月連続減少した。地域別では、アジア(含む中国)は9ヶ月連続で減少したが、北米、欧州がともに2ヶ月ぶりに増加した。

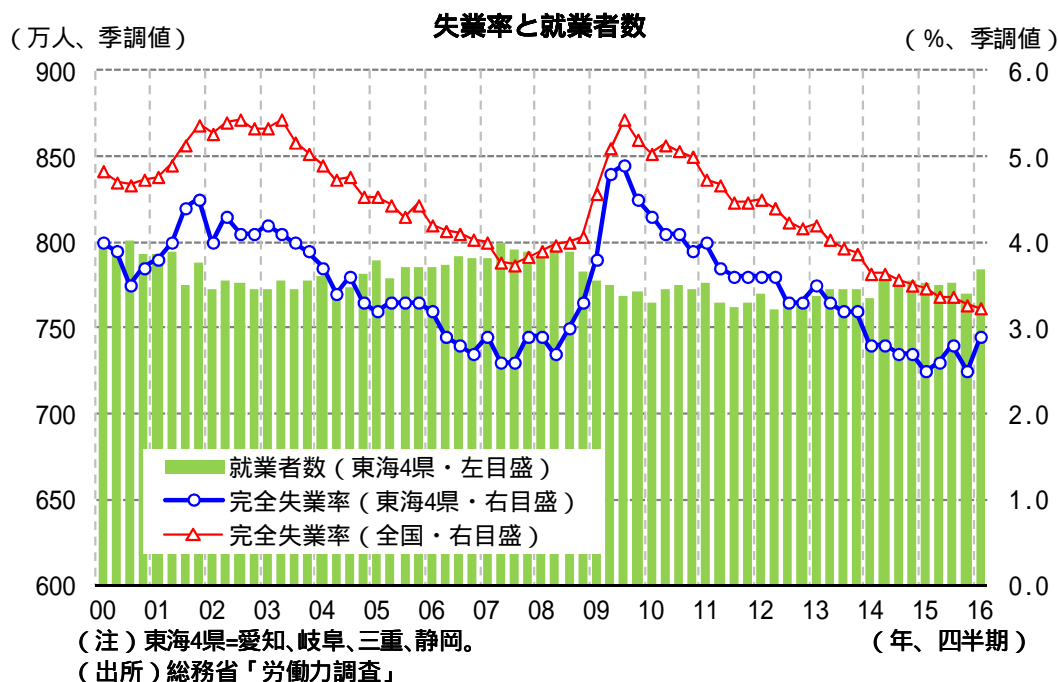


3月の中部電力管内の大口電力量(契約電力500kw以上)は、前年同月比 - 0.5%と2ヶ月ぶりに減少した。窯業・土石(同 + 4.7%)、非鉄金属(同 + 0.5%)、食料品(同 + 1.2%)、機械(同 + 0.5%)などが増加したが、鉄鋼(同 - 1.9%)、化学(同 - 9.1%)などが減少した。

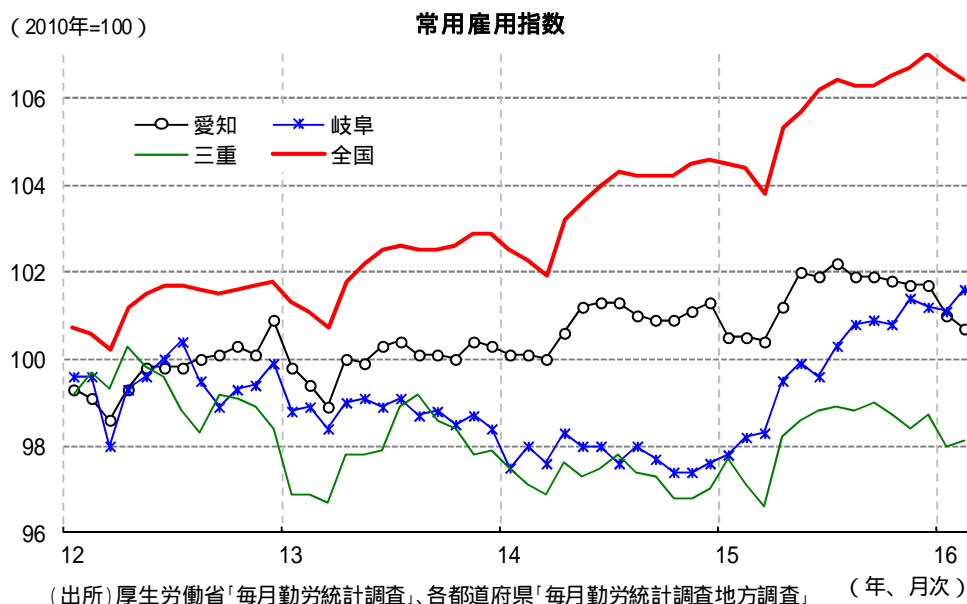


3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

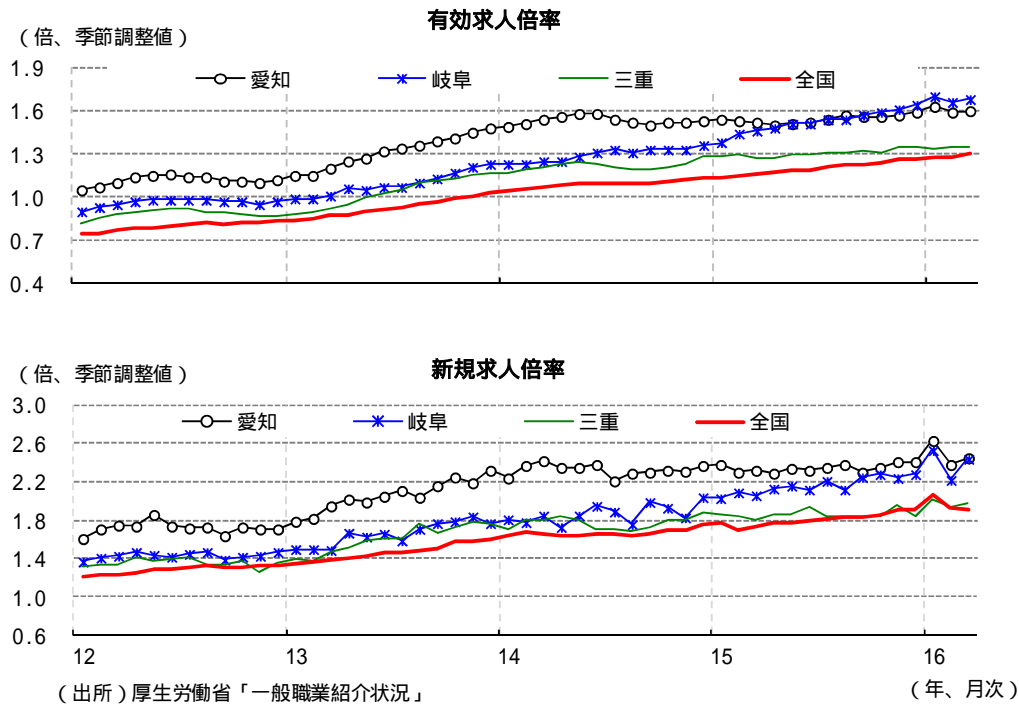
2016年1~3月期の東海4県の完全失業率は2.9%（前期差+0.4%ポイント）と上昇したが、全国（3.2%）に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は同14万人の増加、完全失業者は同2万人の増加となった。東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱く、持ち直しの動きが弱まっている。有効求人倍率は高水準で横ばい圏で推移している。



2月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.2%と26ヶ月連続、岐阜県は同+3.5%と14ヶ月連続、三重県は同+1.0%と11ヶ月連続で上昇した。東海3県の常用雇用指数は、岐阜県を除き全国（同+1.9%）に比べて弱く、持ち直しの動きが弱まっている。

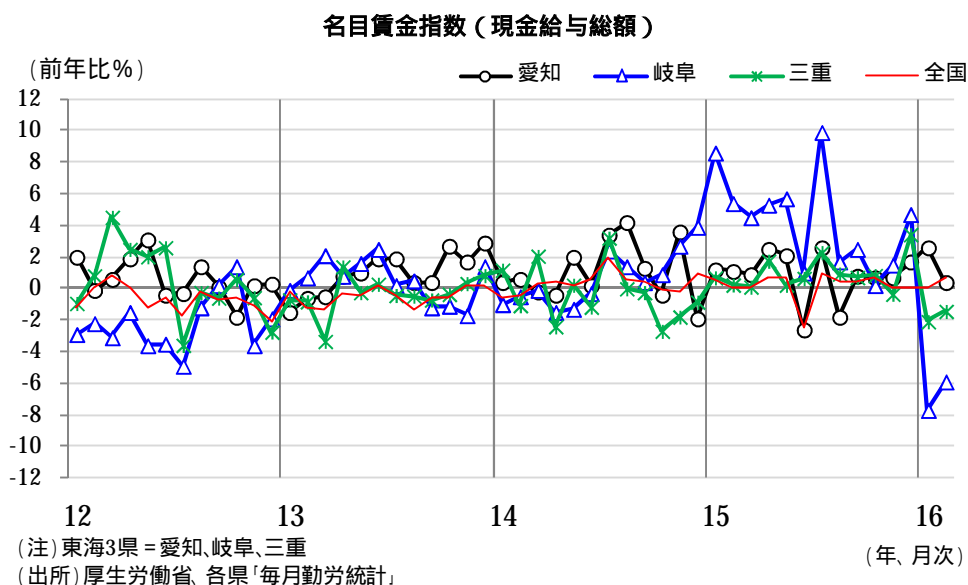


3月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が1.60倍と前月（1.59倍）を2ヶ月ぶりに上回り、岐阜県も1.68倍（前月1.66倍）と2ヶ月ぶりに上昇した。また、三重県は1.35倍と前月と同水準となった。新規求人倍率（同）は、愛知県（2.45倍）、岐阜県（2.44倍）、三重県（1.97倍）と、いずれも2ヶ月ぶりに上昇した。

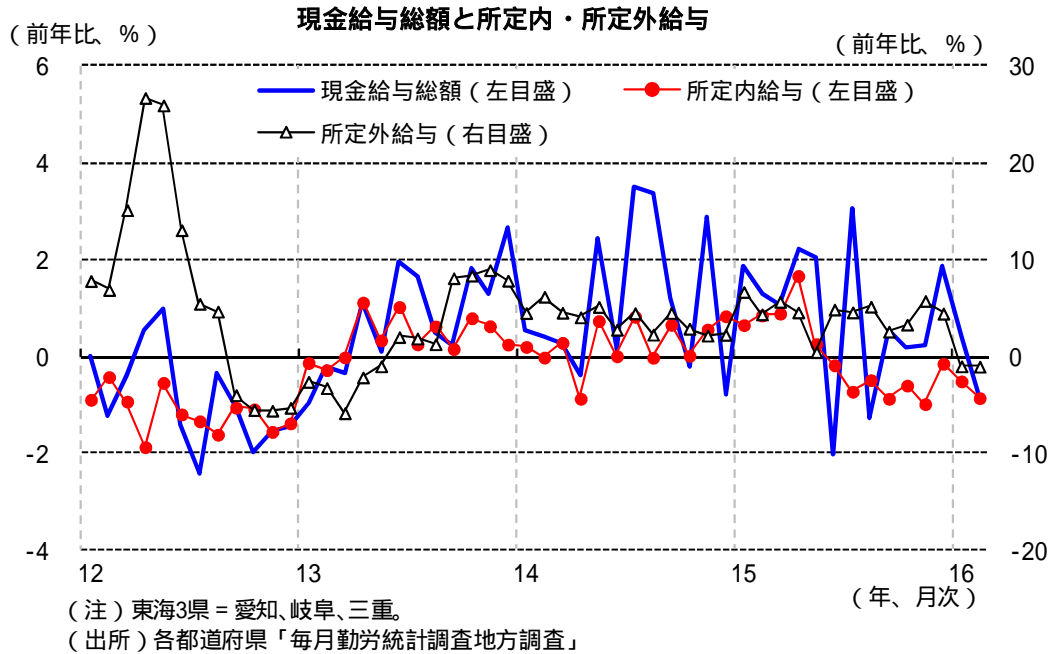


4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

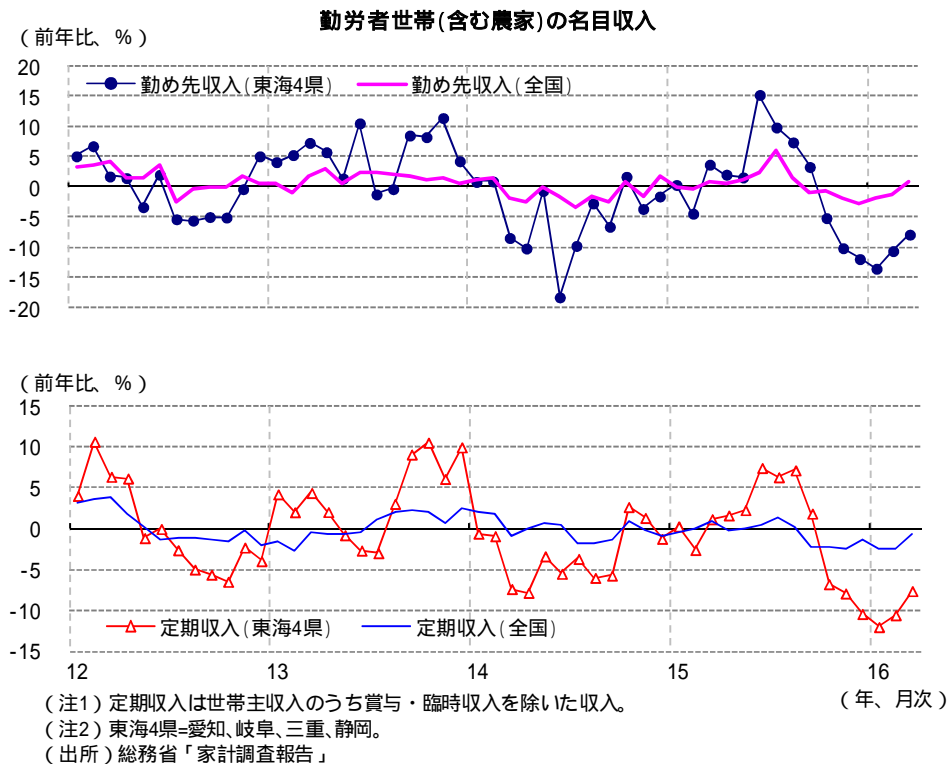
東海3県の2月の名目賃金指数（現金給与総額）をみると、三重県は前年比 - 1.4%と2ヶ月連続で、岐阜県は同 - 5.9%と2ヶ月連続で減少したが、愛知県は、同 + 0.4%と6ヶ月連続で増加した。東海3県の賃金は月毎の変動が大きいですが、均してみると横ばい圏で推移している。今後については、自動車減産の影響もあり、伸び悩みが続く可能性がある。



東海3県の2月の一人当たり現金給与総額（加重平均）は、前年比 - 0.8%と6ヶ月ぶりに減少した。内訳をみると、所定内給与は同 - 0.9%と9ヶ月連続で減少し、所定外給与は同 - 1.1%と2ヶ月連続で減少した。

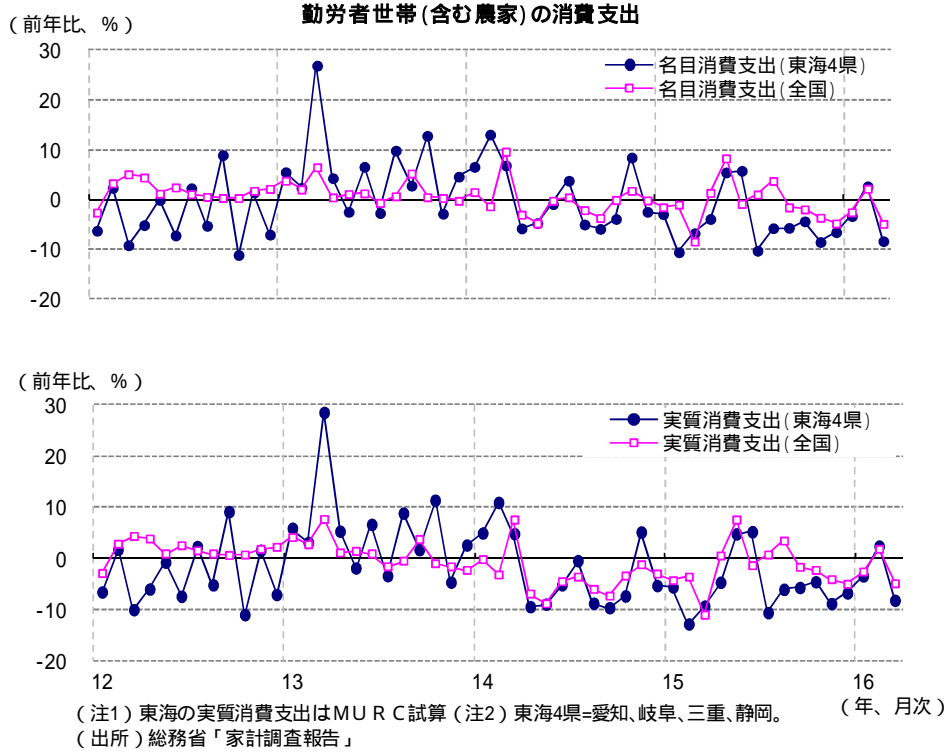


家計調査によると、3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 7.8%と6ヶ月連続で減少した。また、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）も前年比 - 7.6%と6ヶ月連続で減少した。

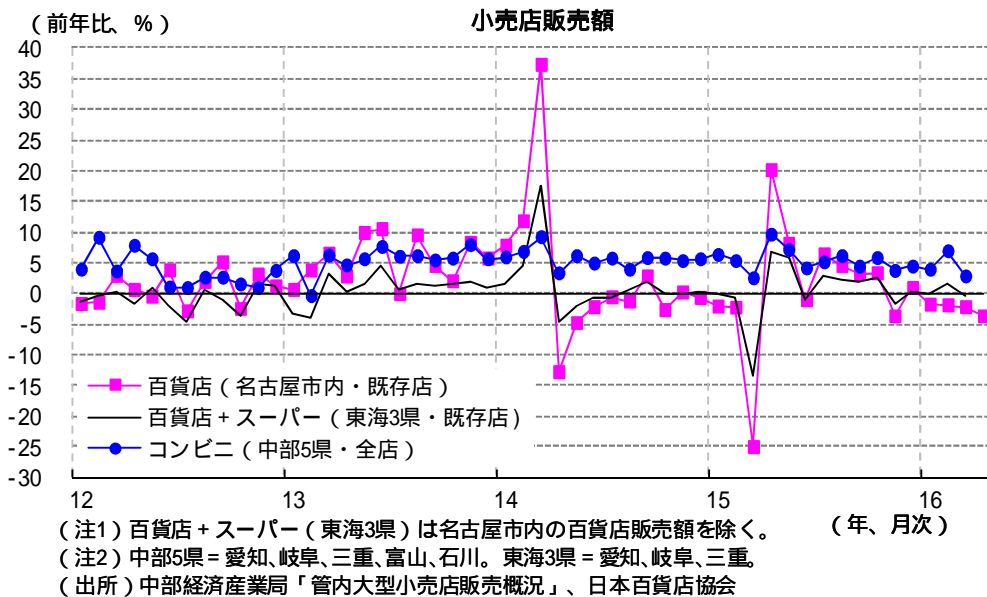


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

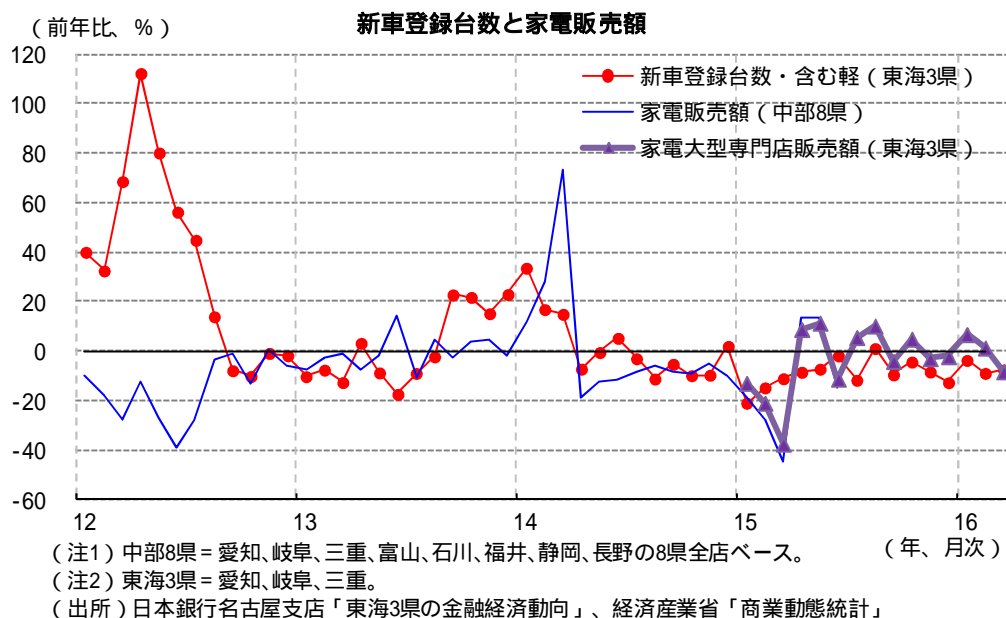
3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比 - 8.4%、実質で同 - 8.2%と、いずれも2ヶ月ぶりに減少した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



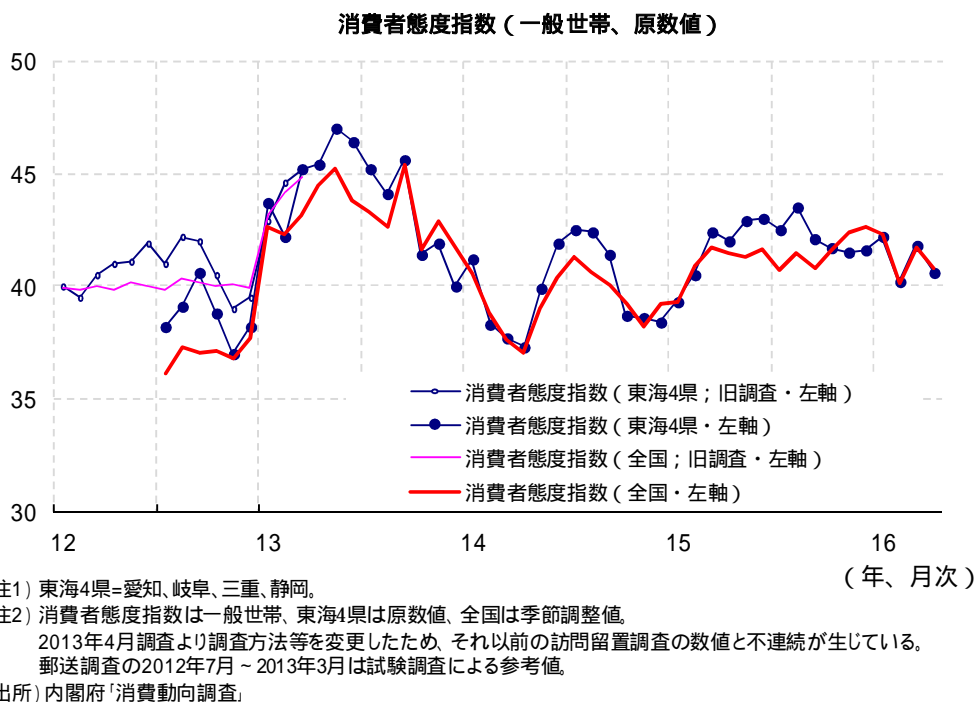
3月の東海3県の大型小売店（百貨店 + スーパー、既存店）の販売額は前年比 - 0.3%と2ヶ月ぶりに減少した。一方、3月の中部5県のコンビニ販売額（全店）は同 + 2.8%と増加が続いた。4月の名古屋市内の百貨店販売額は、一部百貨店の店舗改装による売り場面積減少もあって春物婦人服などが苦戦し、同 - 3.7%と4ヶ月連続で減少した。



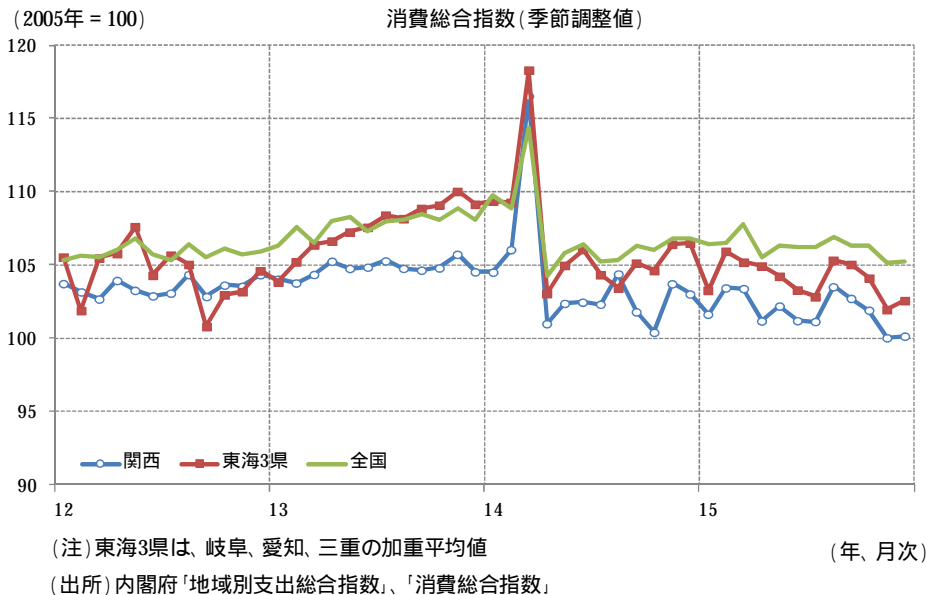
3月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比 - 7.5%と7ヶ月連続で減少した。車体課税見直しの影響による軽自動車販売の落ち込みが引き続きマイナスに寄与した。一方、3月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同 - 8.3%と3ヶ月ぶりに減少した。



消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、4月は前月差 - 1.2ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。実質所得の落ち着きにより、消費者マインドは横ばい圏で推移してきたが、景気の先行きに対する不透明感からこのところ弱含んでいる。今後については、内外景気の先行き不透明感が続くことから、横ばい圏での推移が見込まれる。

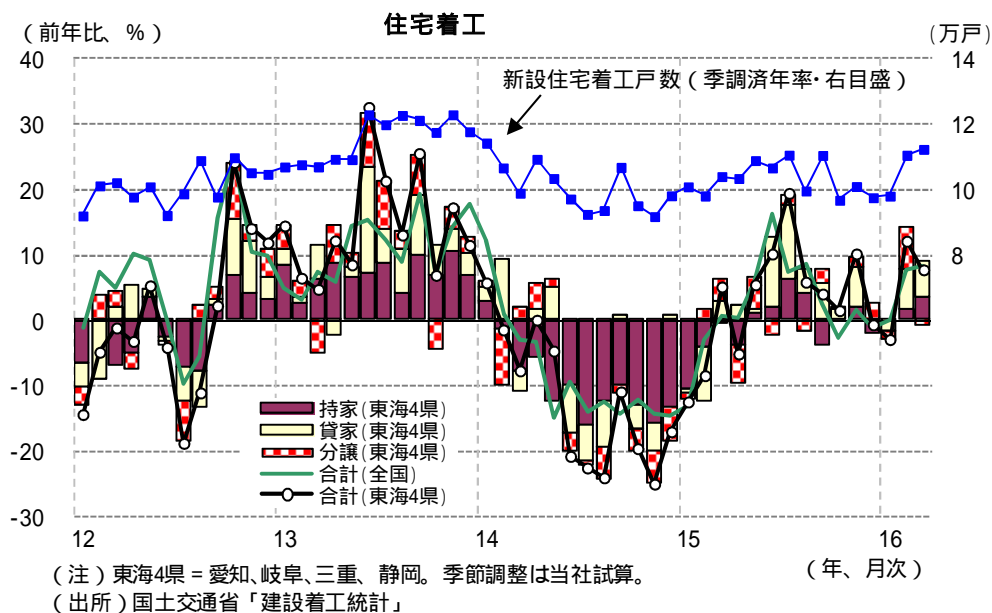


内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移していたが、15年末にかけてやや弱含んでいる。家計消費のレベルは、天候不順も影響して横ばい圏で弱い動きが出ている。

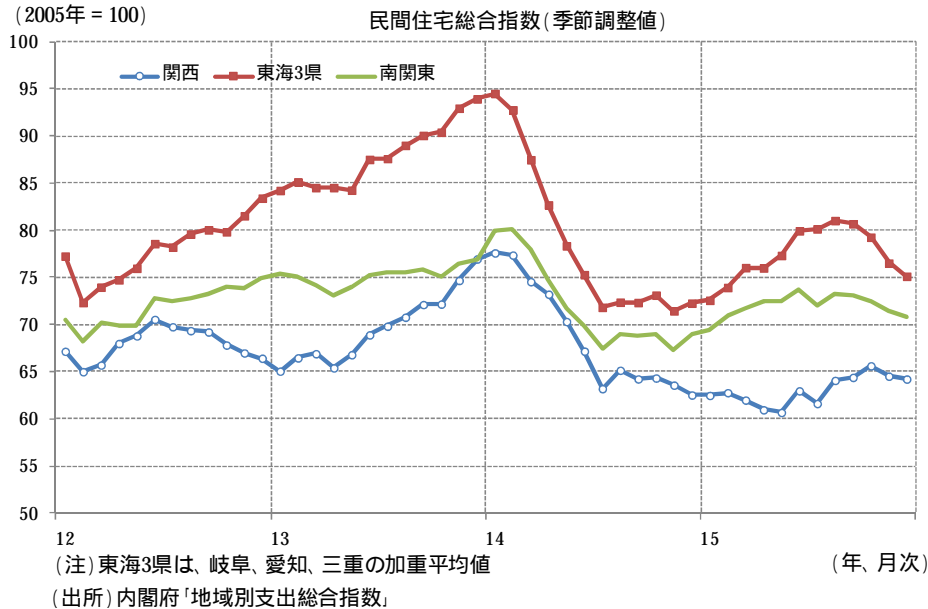


6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

3月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、省エネ住宅ポイント制度の着工期限前の駆け込み等により前月比で+1.6%と3ヶ月連続で増加したが、基調としては横ばい圏で推移している。また、前年比では同+7.8%(9,071戸)と2ヶ月連続で増加した。利用関係別の寄与度は、分譲が2ヶ月ぶりにマイナス寄与となったが、持家、貸家はいずれも2ヶ月連続でプラス寄与となった。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

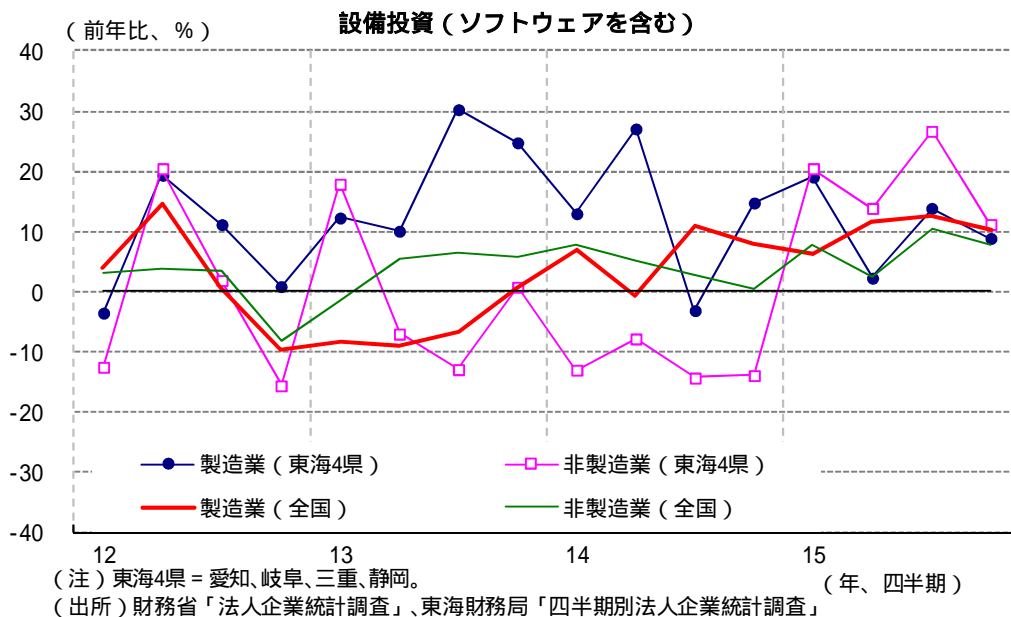


内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、14年末以降、持ち直してきたが、15年8月をピークに弱い動きとなっている。

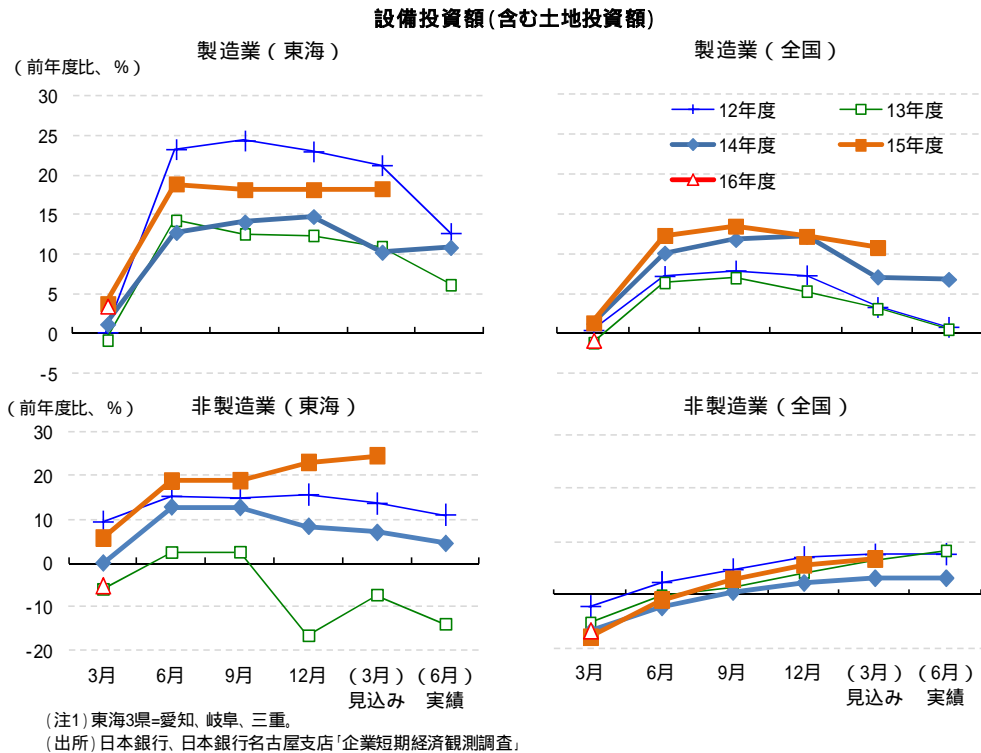


7. 設備投資 ~ 増加している

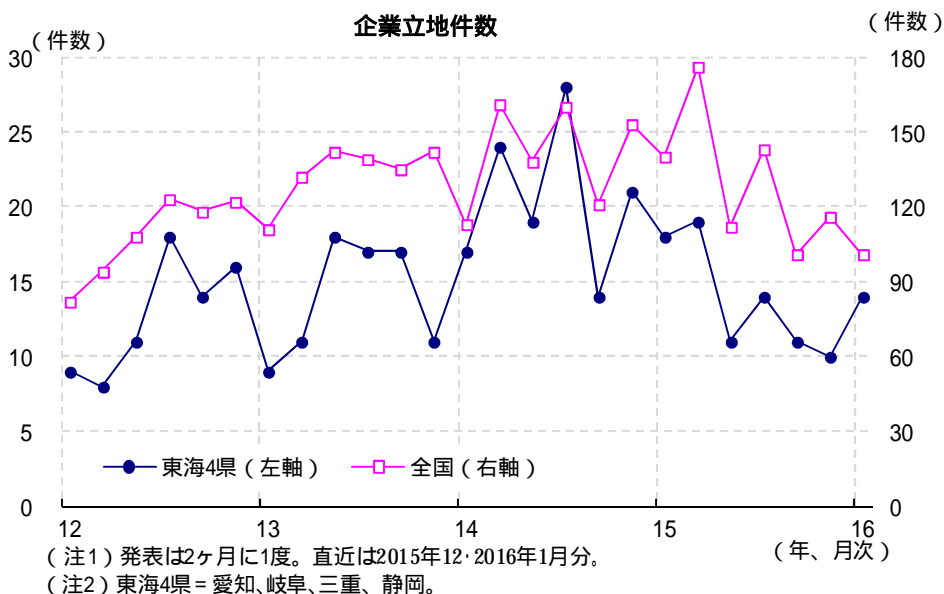
2015年10～12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+9.9%と5四半期連続で増加した。製造業は同+8.9%と5四半期連続で増加、非製造業は同+11.2%と4四半期連続で増加した。



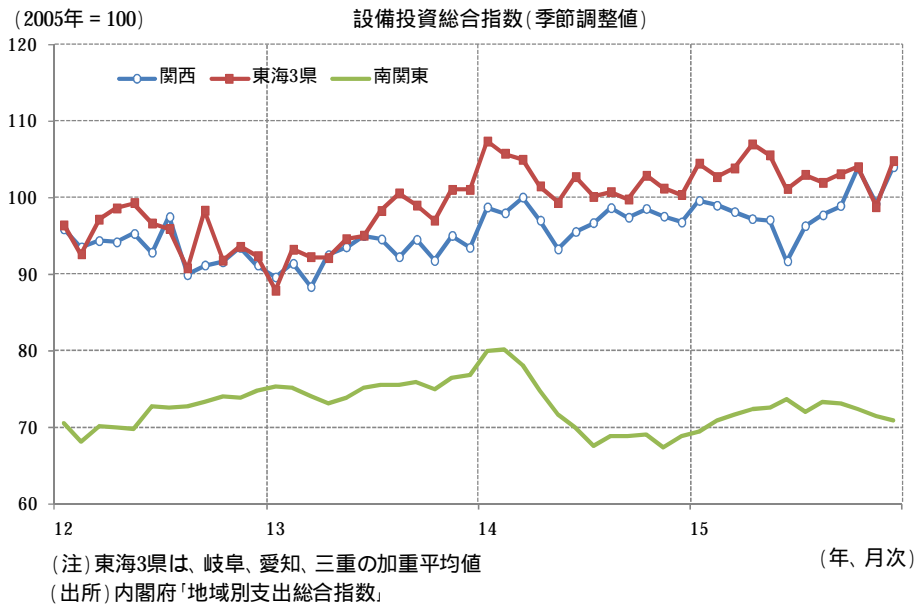
日銀短観3月調査によると、東海3県の15年度設備投資計画は全産業で前年比+21.1%、製造業で同+18.3%、非製造業で同+24.5%と増加を見込んでいる。製造業は前回12月調査とほぼ同水準、全産業、非製造業は上方修正され、全国と比べても高めの見込みとなっている。16年度は、全産業で同-0.6%、製造業同+3.5%、非製造業同-5.2%の計画となっている。



2015年12・2016年1月の東海4県の企業立地件数は14件と、前期(10・11月;10件)から増加したが、前年同期(18件)と比べて減少している。東海地区の企業立地は15年以降、減少傾向で推移している。

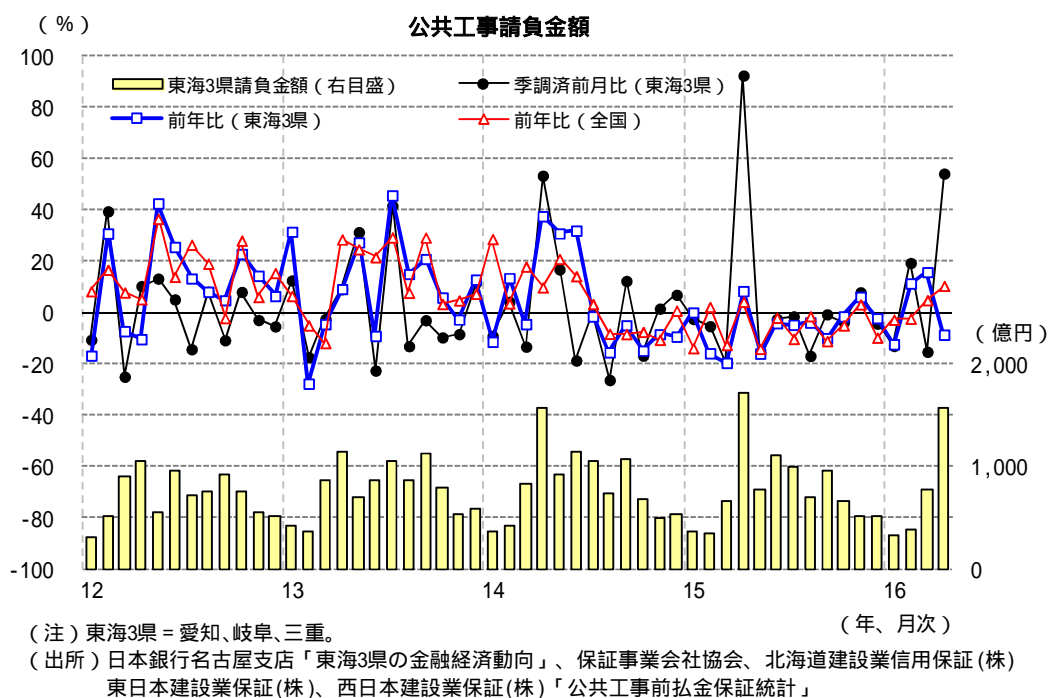


内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の民間企業設備投資は、14年以降を均してみても高水準で横ばい圏で推移している。

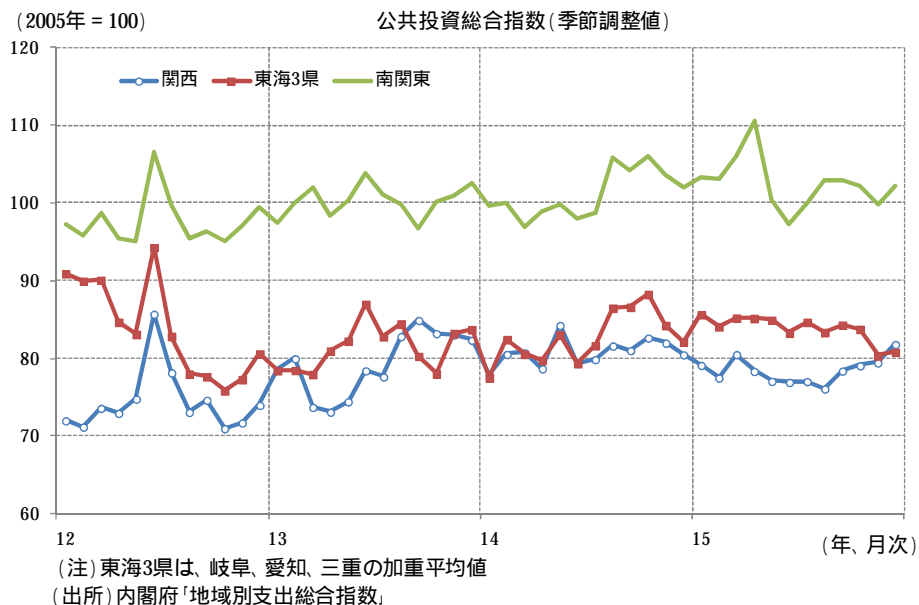


8. 公共投資 ~ 下げ止まりの動き

4月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 8.4%の1,569億円と3ヶ月ぶりに前年を下回った。発注者別では、国は同 + 18.2%と増加したが、地方は同 - 16.3%と減少した。一方、4月の季調済み前月比は + 54.3%と2ヶ月ぶりに大幅に増加した。公共投資は、2015年度補正予算の執行により一時的に増加している可能性がある。16年度予算の前倒し執行もあって、目先は横ばい圏での推移が見込まれる。

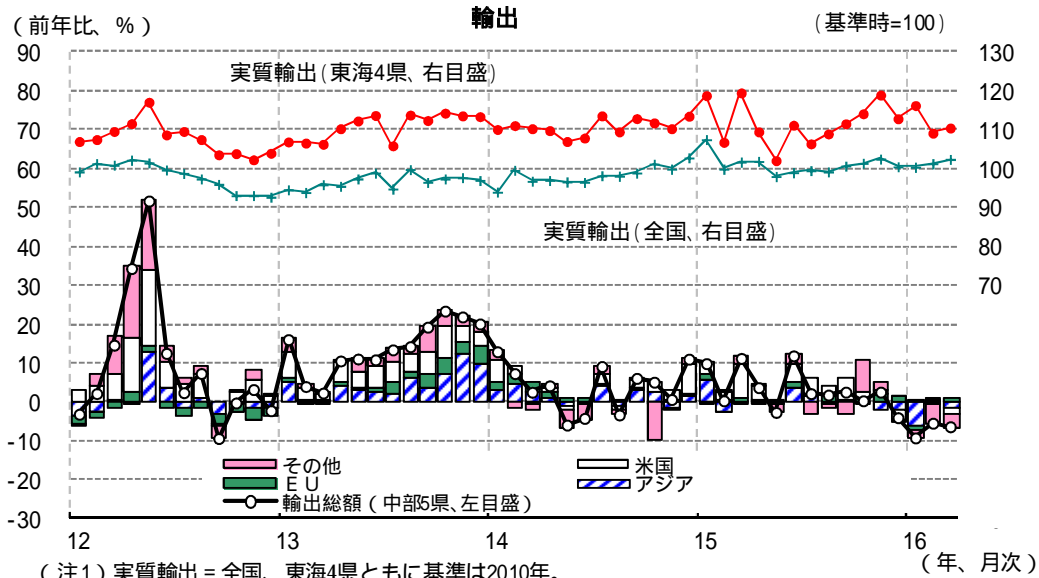


内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の工事進捗ベースでの公共投資は、15年は過去と比べて水準は高めながらも横ばい圏で推移しており、足下で弱含んでいる。

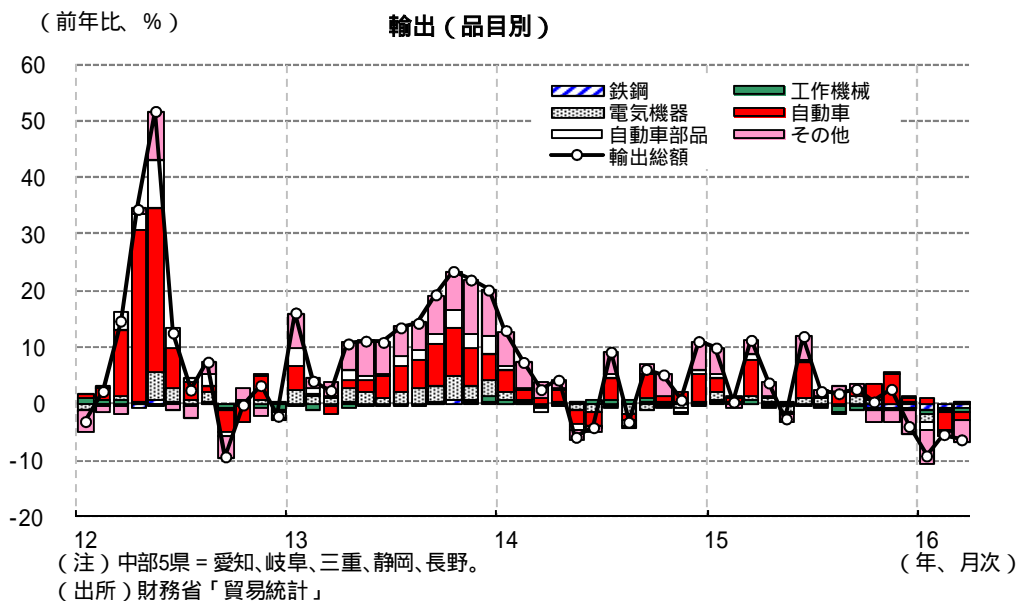


9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに横ばい

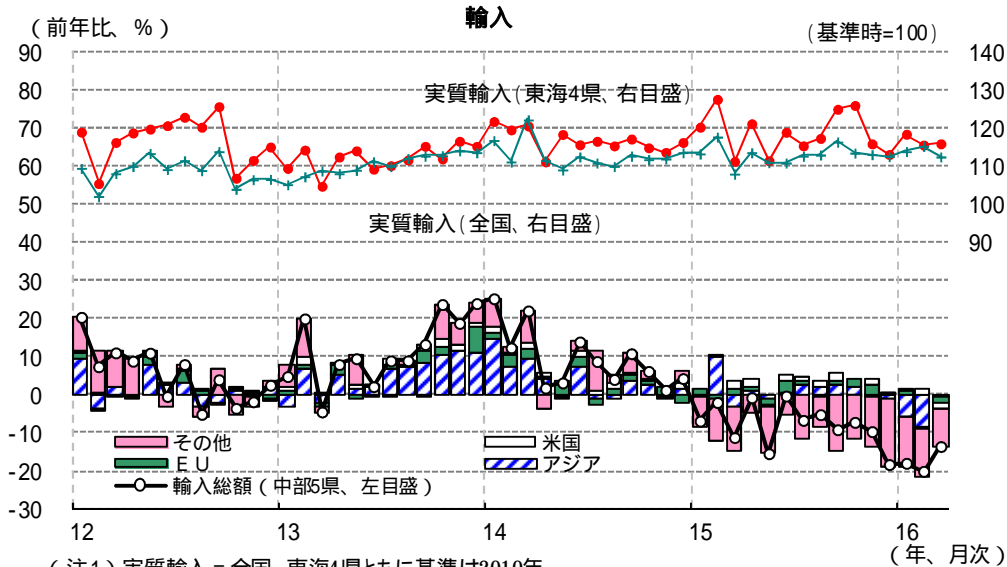
3月の実質輸出（季調済）は、前月比+1.2%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、3月の名古屋税関管内の輸出額は前年比-6.3%と4ヶ月連続で減少した。EU向けは同+5.0%と2ヶ月連続で増加したが、米国向けは同-6.7%と3ヶ月ぶりに、アジア向けは同-4.6%と8ヶ月連続で減少した。先行きは、新興国経済減速の影響もあって、横ばい圏での推移が見込まれる。



3月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、電気機器（同+1.4%）は3ヶ月ぶりに増加したが、主力の自動車（同-4.0%）は2ヶ月連続の減少、工作機械（同-22.2%）は9ヶ月連続、鉄鋼（同-30.2%）は8ヶ月連続で減少した。



3月の実質輸入(季調済)は、前月比+0.3%と2ヶ月ぶりに増加した。また、3月の名古屋税関管内の輸入額(速報)は前年比-13.5%と15ヶ月連続で減少した。品目別には、液化天然ガス、原油及び粗油、自動車等が減少し、地域別には中東、北米、EU等が減少に寄与した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



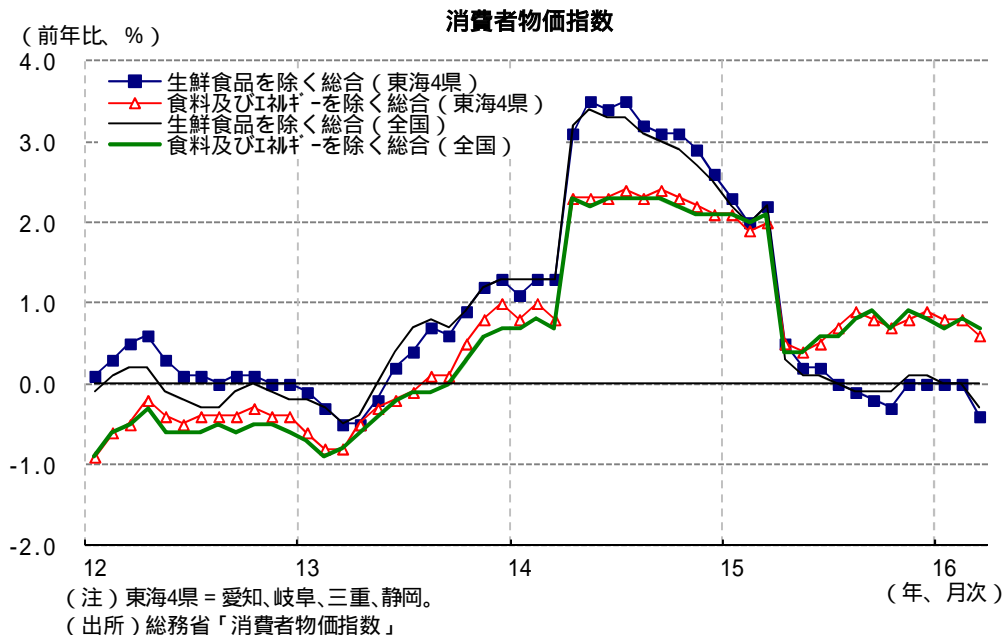
(注1) 実質輸入 = 全国、東海4県ともに基準は2010年。

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

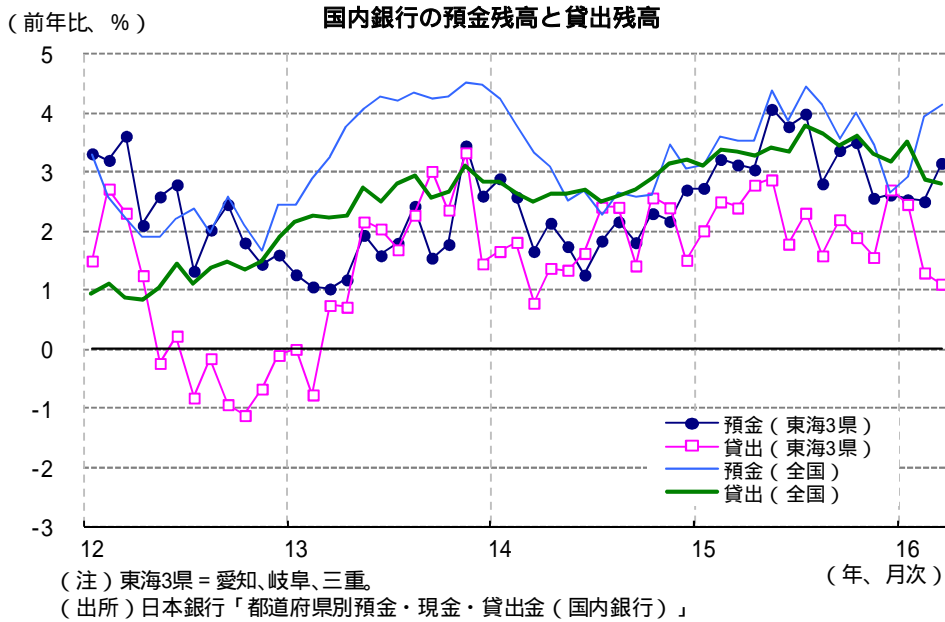
10. 物価 ~ 緩やかに低下

3月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比-0.4%となり、5ヶ月ぶりに低下した。食料・エネルギーを除く総合は同+0.6%と32ヶ月連続で上昇、消費税率引き上げの影響一巡後も食料品価格が上昇しており、緩やかな上昇が続いている。今後は、エネルギー価格の下落や円高による輸入物価下落が物価低下圧力として働くため、物価はやや低下基調で推移しよう。



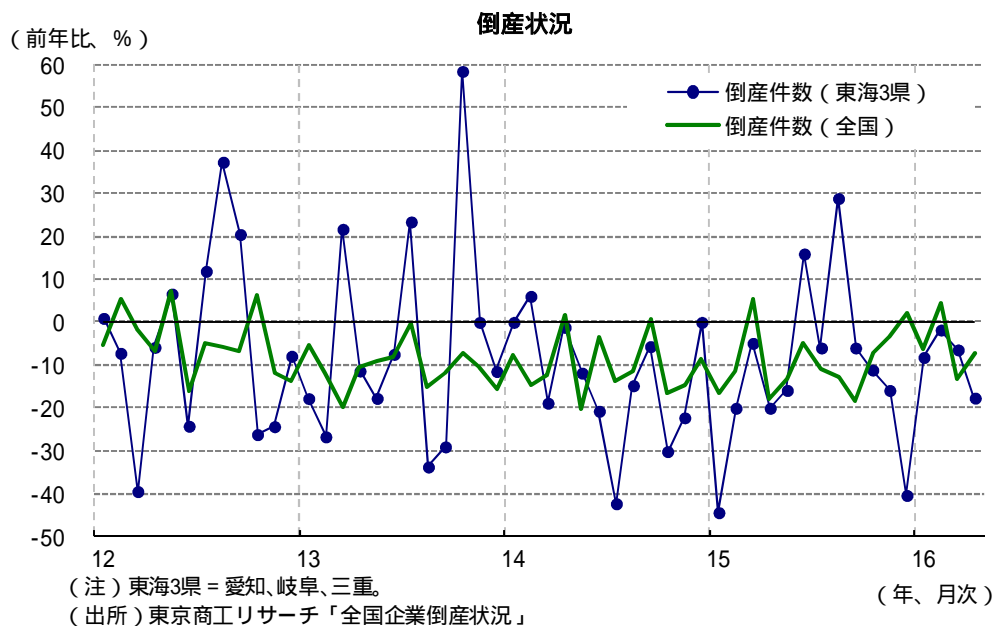
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

3月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比+3.2%と増加が続いている。貸出残高（国内銀行ベース）は、同+1.1%と37ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数は減少、負債総額は増加

4月の東海3県の倒産件数は前年比 - 17.6%の56件と8ヶ月連続で減少した。岐阜県（同+9.1%）は2ヶ月ぶりに増加したが、愛知県は前年比 - 21.2%と6ヶ月連続で減少、三重県（同 - 40.0%）も2ヶ月ぶりに減少した。一方、4月の東海3県の負債総額は、同+3.5%の134億円と5ヶ月ぶりに前年を上回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→		全国	→		→
	東海	→		→	輸出	東海	↘		↗
	関西	→		→		関西	→		→
個人消費	全国	↘		→		全国	→		→
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→		関西	↗		→
住宅投資	全国	↗		→		全国	↘		↘
	東海	↗		↘	生産	東海	↘		→
	関西	↗		↘		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗		全国	↗		→
	東海	↗		↗	雇用	東海	→		→
	関西	↗		→		関西	↗		→
公共投資	全国	↘		↘		全国	→		↗
	東海	↗		↘	賃金	東海	→		→
	関西	↗		↘		関西	→		→

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は5月6日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		4月のコメント	5月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	自動車の減産により大幅減少	弱含んでいる
	東海	自動車の減産により大幅減少	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移しているが、弱い動きがみられる	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4. 賃金	全国	持ち直しが一服	持ち直しが一服
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	弱い動きが見られる	弱い動きが見られる
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかな増加基調	緩やかな増加基調
	東海	増加している	増加している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
8. 公共投資	全国	減少している	減少している
	東海	下げ止まりの動き	下げ止まりの動き
	関西	下げ止まりの動き	増加している
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は横ばい圏	企業物価は下落、消費者物価は小幅下落
	東海	横ばい圏で推移している	緩やかに低下
	関西	緩やかに上昇	横ばい圏で推移している
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。